

2019年における北硫黄島の爬虫類相

川上 和人^{1*}、飴田 洋祐²

Reptiles of Kita-iwoto Island, the Volcano Island Group, in 2019

Kazuto KAWAKAMI^{1*} & Yosuke AMEDA²

1. 森林総合研究所（〒305-8687 茨城県つくば市松の里1）
Forestry and Forest Products Research Institute, 1 Matsunosato, Tsukuba, Ibaraki 305-8687, Japan.
 2. 小笠原自然文化研究所（〒100-2101 東京都小笠原村父島西町）
Institute of Boninology, Nishimachi, Chichijima, Ogasawara, Tokyo 100-2101, Japan.
- * kazzto@ffpri.affrc.go.jp (author for correspondence)

要旨

北硫黄島の爬虫類相の現状を明らかにするため、2019年6月18日～23日の期間に現地で調査を行った。今回の調査では在来種のオガサワラトカゲ *Cryptoblepharus nigropunctatus* と外来種のオガサワラヤモリ *Lepidodactylus lugubris* の2種のみが見つかった。前者は海岸から標高470mの広い範囲で観察された。一方で後者は標高666m地点でのみ発見された。なお、オガサワラヤモリはこの島で初めての記録である。

キーワード

小笠原諸島、オガサワラトカゲ、オガサワラヤモリ

1. はじめに

小笠原諸島では、在来の陸棲爬虫類としてオガサワラトカゲ *Cryptoblepharus nigropunctatus* とミナミトリシマヤモリ *Perochirus ateles* が、外来種としてはグリーンアノール *Anolis carolinensis*、オガサワラヤモリ *Lepidodactylus lugubris*、ホオグロヤモリ *Hemidactylus frenatus*、ブラーミニメクラヘビ *Ramphotyphlops braminus* の生息が、それぞれ報告されている（千石、1983；小笠原自然環境研究会、1992）。北硫黄島ではこれまでにオガサワラトカゲが記録されているが（Hayashi *et al.*, 2009）、それ以外の種に関する情報がない。そこで本研究では、北硫黄島の爬虫類相を明らかにすることを目的として2019年6月18～23日に上陸調査を行った。

2. 材料と方法

北硫黄島の爬虫類の生息状況の把握のため、島の東側の海岸部から山頂までを踏査しながら爬虫類を探索し、発見した場所を記録した。また、発見した個体の一部は捕獲し、液浸標本として保管した。踏査ルートは図1の通りである。

3. 結果

踏査の結果、オガサワラトカゲは海岸部から標高 470m の範囲で発見された。それぞれの個体は樹上や地上、岩上など多様な環境で見つかった。任意の観察では低標高地ほど個体数が多い傾向があり、標高 200m の製糖工場より標高の低い場所では多数が目撃された。また、標高 666m 地点ではオガサワラヤモリ 1 個体が発見された

(図1、地点D)。オガサワラヤモリは背面の模様から3倍体クローンのクローンCと識別され、尾は再生尾となっていた(図2)。この個体は発見の際には同地点に設置されていたデータロガーの間隙で休息していた。この個体の他にはヤモリ類は発見されなかった。同時期に島内で行われた土壌動物調査でも爬虫類は見つかっていない。発見した個体のうちオガサワラトカゲ17個体(地点A:15個体、地点B:1個体、地点C:1個体)、オガサワラヤモリ1個体を捕獲し、液浸標本として保管した。捕獲した個体は今後安定同位体比分析等に供試する予定である。

4. 考察

今回の調査では、過去に記録のあったオガサワラトカゲの他に、オガサワラヤモリが初めて記録された。オガサワラトカゲは低標高域でのみ見つかったが、これは南硫黄島(標高916m)において標高660m以下に生息している点と同じ傾向と言える(川上・村上, 2018)。

小笠原諸島のオガサワラヤモリは2倍体クローンのクローンAと3倍体クローンの



図1. 調査地の地図

グレーの線: 踏査ルート、A-D: 爬虫類の捕獲地点。
地図は国土地理院・地理院タイルによる。

Figure 1. Map of survey area

Gray line: survey route, A-D: location of reptile capture point.

クローン C の 2 タイプの生息が知られている (Yamashiro *et al.*, 2000)。父島では戦前にはクローン C のみが見つかったが、返還後にはクローン A が記録されるようになり、最近ではクローン A が優占するようになっている (Yamashiro & Ota, 2005; Murakami *et al.*, 2015)。小笠原諸島内ではクローン A は少なくとも聳島、嫁島、兄島、西島、父島、母島、平島、硫黄島に侵入しており、クローン C のみが見つかった島は北之島だけである (Murakami *et al.*, 2015)。北硫黄島では戦後は人間による利用が非常に稀であったため、クローン A が侵入しなかった可能性がある。クローン C はクローン A に

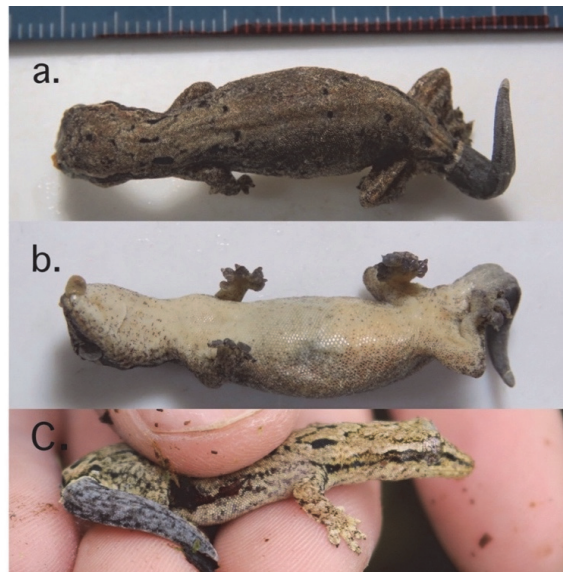


図2. 捕獲されたオガサワラヤモリの (a) 背面、(b) 腹面、(c) 横面の写真

Figure 2. (a) Back, (b) ventral and (c) side photographs of captured *Lepidodactylus lugubris*

比べて森林を好む傾向があり (Murakami *et al.*, 2015)、森林に覆われた北硫黄島はこのクローンの環境選好と一致している。今回の調査ではオガサワラヤモリは 1 個体しか見つからず、また過去の調査でも観察されていない (川上、未発表)。北硫黄島にはクマネズミ *Rattus rattus* とドブネズミ *R. norvegicus* が侵入しており、これらの捕食圧によりオガサワラヤモリの個体群密度が抑えられているのかもしれない。今回見つかったクローンは戦前から小笠原に侵入しているタイプであり、また発見場所がアプローチの難しい高標高地だったことから、本種は最近侵入したものではなく、既に侵入していたが密度が低いいため見つからなかったものと考えられる。

5. 謝辞

本研究の成果は、東京都が主催し小笠原自然文化研究所が請け負って実施された北硫黄島学術総合調査によるものである。爬虫類の捕獲調査では鈴木創氏をはじめとし総合調査に参加した各分野の調査隊員にご協力いただいた。また、オガサワラヤモリの同定にあたっては村上勇樹氏にご協力いただいた。調査の実施にあたっては、環境省、林野庁、小笠原村、小笠原漁業協同組合等の各関係機関に多大な便宜を図っていただいた。ここに深い感謝の意を申し上げたい。

6. 引用文献

- Hayashi F, Shima A, Horikoshi K, Kawakami K, Segawa R, Aotsuka T & Suzuki S (2009) Limited overwater dispersal and genetic differentiation of the snake-eyed skink *Cryptoblepharus nigropunctatus* in the oceanic Ogasawara Islands, Japan. *Zoological Science* 26: 543–549.
- 川上 和人・村上 勇樹 (2018) 2017 年における南硫黄島の爬虫類相. 小笠原研究 44: 289–294.
- Murakami Y, Sugawara H, Takahashi H & Hayashi F (2015) Population genetic structure and distribution patterns of sexual and asexual gecko species in the Ogasawara Islands. *Ecological Research* 30: 471–478.
- 小笠原自然環境研究会 (1992) 『小笠原の自然』 古今書院, 143p.
- 千石 正一 (1983) 南硫黄島の爬虫類. 環境庁自然保護局 (編) 『南硫黄島の自然』 日本野生生物研究センター, 287–301.
- Yamashiro S & Ota H (2005) On the clone type of *Lepidodactylus lugubris* (Duméril & Bibron, 1836) corresponding to *Gehyra variegata ogasawarasimae* Okada, 1930 (Reptilia: Gekkonidae). *Current Herpetology* 24: 95–98.
- Yamashiro S, Toda M & Ota H (2000) Clonal composition of the parthenogenetic gecko, *Lepidodactylus lugubris*, at the northernmost extremity of its range. *Zoological Science* 17: 1013–1020.

SUMMARY

Reptiles of Kita-iwoto Island, the Volcano Island Group, in 2019

Kazuto KAWAKAMI¹* & Yosuke AMEDA²

1. Forestry and Forest Products Research Institute, 1 Matsunosato, Tsukuba, Ibaraki 305-8687, Japan.
 2. Institute of Boninology, Nishimachi, Chichijima, Ogasawara, Tokyo 100-2101, Japan.
- * kazzto@ffpri.affrc.go.jp (author for correspondence)

In June 2019, a field survey was conducted on the current status of reptile fauna on Kita-iwoto Island, the Volcano Island Group. Only two reptile species, *Cryptoblepharus nigropunctatus* and *Lepidodactylus lugubris*, were found. The former was observed in a wide area from the coast to an elevation of 470m, while the latter was found only at an elevation of 666m. This is the first time to confirm the occurrence of *Lepidodactylus lugubris* on this island.

Key words

Cryptoblepharus nigropunctatus, *Lepidodactylus lugubris*, Ogasawara Islands

